



様々なテーマで、より専門的な内容を学んでいただける教養講座として、「最高最新の内容を分かりやすく」をモットーに開講しています。受講料は**840円**です。(京都まなびすと会員は**740円**です)※いずれも税込価格

アスニーセミナーの予約についてのお知らせ

各月の予約受付開始日をご確認ください。(京都アスニーホームページからもご予約いただけます。)

※耳の不自由な方対象の手話通訳・要約筆記をご希望の方は、開講日の10日前までにご相談ください。

留意点

- (1)受付は申し込み先着順です。開催日前日までにご予約ください。講座当日のインターネット予約も無効となります。
- (2)予約されたセミナーを欠席される場合はお早めにご連絡ください。無断キャンセルは他の方のご迷惑になりますので、固くお断りいたします。皆様のご協力をお願いいたします。
- (3)会場は、開催日当日、1階エレベーター前の掲示をご確認ください。当日の開始時刻を過ぎてもお越しにならない場合は、ご入場いただけない場合があります。あらかじめご了承ください。

9月・10月の講座予約は、現在受付中です。

9月1日(金) 14:00～16:00

足利直冬の境遇 —足利尊氏との関係を再考する—

帝塚山大学文学部 准教授 **花田 卓司**

足利直冬は叔父足利直義の養子となり、父である足利尊氏と戦った人物です。通説では、尊氏は直冬の素性を疑って冷淡に接し、直冬も尊氏を憎悪していたとされています。本講座では尊氏と直冬をめぐる史料を読み直し、両者の関係を再考したいと思います。

9月8日(金) 14:00～16:00

朝鮮王朝実録を読む —朝鮮王朝の歴史はどう伝えられたのか—

天理大学国際学部 教授 **長森 美信**

韓流ドラマを通して身近になってきた朝鮮王朝。朝鮮王朝実録は歴代王代の事蹟を政府が編纂した記録で、王朝の「正史」とされています。この実録を通して、朝鮮王朝五百年の歴史がどのように伝えられてきたのかを考えます。

9月15日(金) 14:00～16:00

天下人たちの文化戦略 —科学の目で見る桃山文化—

龍谷大学文学部 教授 **北野 信彦**

桃山文化とは、絢爛豪華でポジティブなイメージが強い日本文化です。天下人たちは何のためにこのような文化を仕掛けたのか？科学の視点から、当時最先端の科学技術をも積極的に取り入れた彼らの文化戦略に迫ります。

9月22日(金) 14:00～16:00

飛鳥の終末期古墳とその被葬者像

奈良県立橿原考古学研究所 特別指導研究員 **前園 実知雄**

飛鳥時代の約100年間は、長く続いた古墳時代の終末期の時代でもあります。古墳の数は減少する中で、飛鳥の一角には限られた人物が葬られたと見られる、個性的な古墳が残っています。これらの古墳の姿、また葬られている人々たちを考えることによって、律令国家「日本」が誕生してゆく過程を知ることができると思います。

9月29日(金) 14:00～16:00

正倉院宝物の魅力 —美しい文様とかたち、その起源—

奈良国立博物館 学芸部長 **吉澤 悟**

奈良・正倉院には、東大寺大仏に献納された聖武天皇の遺愛品を中心に、奈良時代の最高峰の工芸品や仏具、染織品などが多数収納されています。毎年秋の正倉院展ではそこから厳選された宝物が公開され、古代文化のきらびやかな世界を実感することができます。今年は文様やかたちに注目し、その起源をはるかシルクロードの彼方に辿ってみようと思います。

10月6日(金) 14:00～16:00

徳川家康の運命を決めた合戦

立命館大学文学部 授業担当講師 **秦野 裕介**

徳川家康の人生の中で大きな転機となった三つの合戦に注目します。三方原の戦いは家康最大の危機でした。小牧・長久手の戦いでは家康は豊臣秀吉の配下に入ることとなります。そして関ヶ原の戦いでは家康は天下人に躍り出ます。それぞれの戦いに家康はどのように臨んだのかを見ていきます。

10月13日(金) 14:00～16:00 京都市平安京創生館企画展関連講座 江戸時代の天文学と京都 元京都大学大学院理学研究科 助教 天体望遠鏡博物館(香川県) 学術顧問 富田 良雄	江戸時代の天文学と京都は意外な関係がありました。初代幕府天文方渋川春海、八代将軍徳川吉宗の大望遠鏡、西三条台改暦所、反射望遠鏡を製作した国友一貫斎などを通して知られる京都の歴史の話をいたします。
10月20日(金) 14:00～16:00 関ヶ原をめぐる三成と家康 ～その勝敗を分けたものは何だったか?～ 淡海歴史文化研究所 所長 太田 浩司	大河ドラマ「どうする家康」は、クライマックスに向けて進んでいます。その中で関ヶ原合戦は、大きな出来事になるでしょう。石田三成は如何なる思いで、大垣城に籠城し家康を待ったか。家康はなぜ大垣城攻撃をやめて関ヶ原へ向かったか。両者の思惑を探り、その勝敗を分けた両軍の動きについて迫ります。
10月27日(金) 14:00～16:00 白洲正子が見た近江 —秘佛という祀り方— 元滋賀県立安土城考古博物館 副館長 NPO 法人歴史資源開発機構 主任研究員 大沼 芳幸	近江をこよなく愛した白洲正子を魅了したものに、近江の仏像がありますが、その多くが「秘佛」として祀られています。秘仏という祀り方を通し、白洲正子が確信した「神と仏の融合こそが日本文化の基調をなす」という意味について解説します。

11月の講座の予約受付は、 9月13日(水)午前10時 から受付開始	
11月10日(金) 14:00～16:00 鎮魂の「血天井」伝説 ～伏見城籠城戦(関ヶ原合戦 前哨戦)の果てに～ 京都産業大学 日本文化研究所 上席特別客員研究員 小嶋 一郎	徳川家康が、上杉景勝を討つべく会津に進軍した直後、伏見城に籠った家康の家臣、鳥居元忠らにより籠城戦に入ります。主君家康が、西から東へと軍を動かせば、必ず、石田三成らが蜂起すると予測し、まさにその通りとなったのです。9月15日天下分け目の関ヶ原の前哨戦となった伏見城をめぐる攻防戦の、その激戦の様子を物語ると伝わる「血天井」が、京都の幾つかの寺院で、今も弔われているのです。
11月24日(金) 14:00～16:00 池波正太郎と京都 名古屋外国語大学 名誉教授/同大学 元副学長 蔵田 敏明	池波正太郎は、故郷東京だけでなく、京都も愛しました。幼いころの景色、懐かしい味を千年の都に感じたのです。都の美しさは江戸の懐かしさでもありました。そして、京都だからできた池波作品の映像化だったのです。

12月の講座の予約受付は、 10月11日(水)午前10時 から受付開始	
12月1日(金) 14:00～16:00 京都を守る大阪湾 —海防から読み解く幕末政治— 京都橘大学文学部 准教授 後藤 敦史	東京の「お台場」は、幕末に江戸湾に築かれた品川台場(砲台)に由来します。しかし、実は同じ時代、大阪湾にも多くの台場が築かれました。京都を守ることが目的です。海防が幕末政治をどう突き動かしたのか。皆さんとともに考えたいと思います。
12月8日(金) 14:00～16:00 城下町の空間と秀吉・家康 —地図から読む都市建設— 京都大学地球環境学堂 教授 山村 亜希	畿内には、豊臣秀吉・徳川家康やその家臣と関わりの深い城下町が、いくつも建設されました。これらの城下町はどのような地形環境に建設され、その空間にはいかなる特徴があるのでしょうか。講座では京都近郊や近江を事例として、地図をもとに城下町の地理を考えます。
12月15日(金) 14:00～16:00 清少納言と彼女をめぐる人々 京都女子大学文学部 教授 中島 和歌子	紫式部が一条天皇の中宮に出仕する少し前に、同じ帝の最初の后に仕えていたのが清少納言です。彼女はどのような人物だったのか。『枕草子』や私家集などをもとに、紫式部との違いや共通点を含め、人間関係を中心にお話ししたいと思います。

連続講座		連続講座の予約は、現在受付中です。1回ごとの受講も可能です。	
『平家物語』を読む 京都大学 名誉教授 上横手 雅敬		9月11日(月) 『平家物語』を時間をかけて精読します。関連して日本史上の重要事項を適宜取り 10月16日(月) 上げます。京都で『平家物語』を読む利点も生かしたいと思います。今回は後白河 11月13日(月) 法皇に対する父清盛の仕打を嘆く重盛が、熊野に参詣して自身の死を願う話など。 12月11日(月) 定員／170名 14:00～16:00 テキスト／『平家物語』上巻 佐藤謙三/校注(角川ソフィア文庫)定価:792円(税込)(販売あり)	
古文書を読んでみよう2 同志社大学 嘱託講師 宇野 日出生		9月13日(水) ①近世の古文書を読む 1 近世の古文書を一点ずつ詳しく読み込んでいきたいと思います。文字や読み方はもちろんですが、時代背景 10月11日(水) ②近世の古文書を読む 2 と思います。文字や読み方はもちろんですが、時代背景 11月 8日(水) ③近世の古文書を読む 3 や差出人・受取人らの気持ちに至るまで、踏み込んで 12月13日(水) ④近世の古文書を読む 4 みたいと思います。古文書のもつ魅力を、皆さんと共に 10:00～12:00 定員／100名 味わいたいと思っていますので、どうぞ気軽にご参 テキスト／講読の古文書と解説は、毎回配布いたします。 加ください。心よりお待ちしております。	
絵で読む『伊勢物語』 NEW 関西大学 名誉教授 京都光華女子大学 名誉教授 山本 登朗		9月27日(水) ①『伊勢物語』が生み出したもの 純粋な「こころ」の世界が私たちの胸を打つ『伊 10月25日(水) ②惟喬親王 勢物語』。その魅力は古くから絵に描かれ、人々 11月22日(水) ③二条の後 は絵を通して『伊勢物語』に親しんできました。 12月20日(水) ④東下り(その一) 江戸時代の素朴な絵本を楽しみながら、『伊勢物 14:00～16:00 定員／100名 語』の世界をあらためて味わいたいと思います。 テキスト／『絵で読む伊勢物語』山本登朗/著(和泉書院)定価:1,650円(税込)(販売あり)	
紫式部が見た 京都の人と生活 ～貴族社会を支えた人々～ 往還塾 塾長 瓜生山学園京都芸術大学 客員教授 五島 邦治		9月28日(木) ①料理人と食事観—豪華ではあったがおいしくなかった— 10月26日(木) ②大工と細工—異能とよばれたものたち— 11月16日(木) ③牛童という人々—貴族の従者たち— 12月21日(木) ④『源氏物語』にみる死生観 10:00～12:00 定員／170名 今回は『源氏物語』の背景にある、人々の生活と信仰についてみてみます。とくに貴族を支え奉仕し た、多くの都市の人々の仕事と生活に焦点を当てます。彼らは時代の寵児でしたが、貴族もまた彼 らの技術を評価し、優れたものを召し抱えました。	
絵とともに読む 源氏物語 ～浮舟の失踪・人々の悲しみ～ 帝塚山大学 名誉教授 清水 婦久子		9月28日(木) ①(浮舟の巻 その2) 勾宮は、宇治にいる浮舟を探して、宇治川の対岸に連れ出す 10月26日(木) ②(蜻蛉の巻 その1) 入水を覚悟して失踪した浮舟。亡骸なきまま葬送が行われる 11月16日(木) ③(蜻蛉の巻 その2) 浮舟の四十九日。勾宮と薫、母君それぞれ悲嘆に暮れる 12月21日(木) ④(手習の巻 その1) 横川の僧都が意識不明の女を助ける。意識を回復した浮舟 14:00～16:00 定員／170名 歌に詠まれた「浮舟」は、運命に翻弄されてきた女君の人生を象徴し、女君の呼び名になります。 一方「蜻蛉」は、大君と浮舟を失った薫の喪失感を表現したことばです。浮舟は僧都と尼君に助 けられ、小野の山荘で心穏やかに暮らす中で、出家を願うようになり、手習いの歌をいくつも書 きつけることによって、次第に自分という存在について考えるようになります。 参考書籍(販売あり):『かるたで学ぶ源氏物語』清水婦久子/監修・編集(帝塚山大学出版会) 各回資料(口語訳付)の配布あり	